

JEAN-FRANCOIS MILLET

ジャン＝フランソワ・ミレー (1814～1875)



ノイエ・ピナコデアク美術館 (ミュンヘン) 所

略 歴

- 1814 ノルマンディ地方、グリュシーの裕福な農家に生まれる。
- 1837 ラングロワの推薦によりシェルブール市の奨学金を得てパリへ
- 1840 友人の父を描いた肖像画『ルフラン氏の肖像』がサロンに初入選
- 1846 後のバルビゾン派のトロワイヨン、ディアズ、ジャック、ルソーらと出会う。農村をテーマとした新しい作風に変化していく
- 1853 サロンに『種をまく人』を出品
- 1855 パリ万博に『接ぎ木する人』を出品し好評
- 1856 エッチング作品を制作
- 1857 サロンに『落ち穂拾い』を出品
- 1859 依頼により『晩鐘』を制作。
- 1862 パリ公会堂での美術家連合サークル展に『井戸から戻る女』を出品し評判となる
- 1864 『羊飼いの少女』がサロンで一等賞を受賞
- 1868 レジオン・ドヌール勲章を受章
- 1870 既に米国に収集家があり、デュラン＝リュエルが主要画商となる
- 1875 バビルゾンにて死去。友人ルソーと墓地を隣にして埋葬

作 品 名 接ぎ木をする農夫 1854 年作

種 類 紙に木炭とクレヨン

サ イ ズ 32×49cm(紙)

『Claude Aubry』証明書付き
マット下にスタンプサインと補足的デッサン『鷺鳥と鶏』
紙裏にもスタンプサインとデッサン『ロバと鶏』
来歴：ジョージ・M・ジャフィン夫婦／個人蔵 (ニューヨーク)